

持続可能な協働型デザインの実践 ～子どもたちとのワークショップを通じて～

西神ニュータウン研究会 第250 回例会

講演 曾和 具之 氏（神戸芸術工科大学准教授）

曾和先生は、西神ニュータウン：研究学園都市に立地する神戸芸術工科大学において、西神ニュータウン周辺の里山、荒廃した保安林、人と自然との共生ゾーン集落周辺、国営明石海峡公園神戸地区、キーナの森公園、神出里づくり協議会や六甲山等での活動を通じて持続可能な協働型デザインへの実践を行われています。

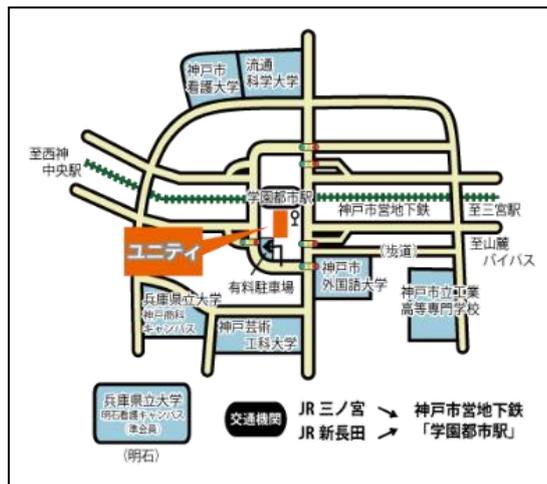
今回は、子どもたちとのワークショップを通じて行われた内容を中心に紹介していただきます。

- 日時 2025年7月16日（水） 18:00～19:50
○場所 神戸市外国語大学サテライト セミナー室B（旧ユニティ）
ユニバープラザ2階（地下鉄「学園都市」駅前）

- 会費 年会費 2,000円
当日のみ参加 300円
（年会費を支払われる方は不要です）

事前申込や予約は必要ありません。

外大サテライト事務局に、例会に関する問い合わせは
しないようにお願いします。



西神中央、西神南、学園都市からなる西神ニュータウンを中心に、ニュータウンの過去、現在、将来について住民主体で意見交換する西神ニュータウン研究会では、例会を毎月開催しています。

例会参加者には、「西神ニュータウン路上探検！おもしろマップ（1、2）」をさしあげます。

神戸芸術工科大学 あいな里山プロジェクト

活動の概要紹介

神戸芸術工科大学あいな里山プロジェクトは、自然素材を活かしたものづくりを大学カリキュラムに盛り込むことを目的に、平成20年に発足しました。

主な活動は、棚田における水田管理です。お米は、古くから国内において生産され続けてきた主要穀物であり、また、そのお米の副産物として収穫される稲ワラは、かつて、日常生活のさまざまな場面で活用されていました。ワラジ、ムシロ、エジコ、ワラ屋根など、その用途はとても多様で、機知に富んだものでした。そんな稲ワラ製品も、近年の工業化により、加工しにくく、傷みやすいワラ製品は、次々と生活の中から消えていきました。しかしながら、素材と

して稲ワラが持つ「循環性」や「多様性」、「環境安全性」は、現在、新たな視点から見直しが進められています。

私たちは、芸術と工学の視点から、自然素材である稲ワラの再利用を目指しています。

主な活動内容

- ・農地環境整備（水田管理、除草）
- ・農業体験、里山体験イベントの開催

代表者：曾和 具之

会員数：教員3名、学生約15名

神戸地区での活動開始時期：平成20年

連絡担当者：曾和 具之

連絡先 TEL：078-794-2112（代表）

E-mail：sowa-t@kobe-du.ac.jp



紙マルチを用いた田植え体験実習



あいな里山まつりでの自然素材オブジェ制作



稲ワラを用いたワラリース制作実習

〔出典：あいな里山公園情報（国営明石海峡公園事務所）〕



〔“木材アーチをつくらう！”
青木南地区まちづくり協議会〕